

日本語の特異な表現法

藤 原 与 一

「特異」とは、人々がふうがわりとを感じるであろうものについて言う。「表現法」とは、ものの言いかたというつもりである。「特異な表現法」は、いわば、共通語の約束にはずれた、ものの言いかたである。

「日本語の特異な表現法」につき、以下、十四項目にわたって述べる。

- 一 表現法の特異なことへの民衆自覚
- 二 私どものにわかには理解することができない表現法
- 三 文表現中に特異な（あるいは特定の）単語があるばあい
- 四 特異とも言えない単語の用法の特異なばあい
- 五 特定単語の古風語の用いられているばあい
- 六 音訛が問題になるばあい
- 七 音転化の大きいばあい
- 八 イディオムの特異なもの
- 九 文表現上に‘変な’つながり関係（承接）の見られるばあい
- 十 省略の大きいばあい
- 十一 発想法の特異なもの——（共通語習慣から言って）——
- 十二 いわゆる無敬語のばあい
- 十三 文末詞法
- 特題一つ——テニヲハ「ガ」の一用法とその分布——

以上の特異とされる表現法も、日本語自身にとっては、基本的な、重要なものである。特異とは言うけれども、これらは、じつは、日本語にとっての本質的特質的なものである。日本語表現の自在性を思う時、上記のような「特異な表現法」は、日本語表現法の躍動と存立可能の広幅とをよく示すものと思われる。